simC News Letter
Sendai International Music Competition
2016年 7月号
仙台国際音楽コンクールニュースレター

第６回仙台国際音楽コンクール 【開催日程】ヴァイオリン部門：2016.5.21（土）～6.5（日） ピアノ部門：2016.6.11（土）～6.26（日）

第6回仙台国際音楽コンクールヴァイオリン部門 レポート

松本 學（音楽評論家）

第6回を数える仙台国際音楽コンクールのヴァイオリン部門、そのファイナルとガラ・コンサートを聴いた。

まずはファイナルについて。ファイナリストとして残った6名は、女性4名に男性2名。国籍別では韓国、カザフスタン、アメリカ、ロシア各1名と日本2名の配分となる。予選こそ圧倒的に日本人コンテスタント多数で始まったものの、最終的には各国バランスよく並ぶという結果に落ち着いたわけだ。

堀米ゆず子氏が審査委員長となった今回の新機軸として、これまでひとり1曲だったファイナルでの課題曲が、当コンクール史上初めて2曲のコンチェルトとされた（メンデルスゾーンを必須とし、もう1曲は指定された4つのロシア作品からの選択制）。それに伴い、これまで2日だった日程も3日間（6月2～4日）に拡大されている。この点で見ると、今回が当コンクール史上最もヘヴィーな回となったと言えるかもしれない。

しかし、すでにセミファイナルの段階でかなり高いレヴェルだった中から選ばれただけあって、コンテスタントたちは2つの課題曲の負担をさほど感じさせず、むしろ一層充実した演奏を繰り広げた。

なお、審査委員にはセミファイナルまで務めた加藤知子氏に代わり、ファイナルにはギドン・クレーメル氏が参加した。

1日目にトップで登場したのは、メルエルト・カルメノワ（カザフスタン）。セレクト作品のストラヴィンスキーから開始し、丁寧に聴かせた。リズムをより活かせればよかったと思う。メンデルスゾーンは美しい音でピッチもよく、おおらかな演奏。大きなコンクールはこれが初めてというので、今後世界で揉まれての成長が楽しみだ。

この日の後半は、岡本誠司。流されずにしっかりと音楽を捉え、ヴィブラートを使い分けながら、それぞれのフレーズを細やかに弾いていた。ピッチが不安定だったのが惜しまれる。選択したのはプロコフィエフの第2番。端正さが光った。

2日目はスティーヴン・キム（アメリカ）から。選択はプロコフィエフの第1番。至極ハイレヴェルな技巧を有し、音楽も演奏スタイルも共にきわめてしなやかだ。音も美しい。作品がよく手

の内に入っているようで、無駄な動きも少なく余裕を感じさせた。メンデルスゾーンでも、最初のフレーズの途中で力を抜いてセンシティヴな味わいを加えたり、アーティキュレーションを工夫するなど常にアイディアを盛り込んでくる。フィナーレはスピード感もたっぷりで爽快だった。

続くアンナ・サフキナ（ロシア）は、メンデルスゾーンの特に前半でやや苦戦。ダブル・ストップ（重音）の音程やシフトなどの動きが綺麗に定まらなかったりしたのが惜しまれる。一方、ショスタコーヴィチでは、持ち前の集中力を発揮。じっくりとしたテンポで弾ききり、多くの聴衆を惹き込んだ。G線の音が素晴らしく魅力的だったのも記憶に残る。

3日目の前半は青木尚佳。とても安定したメンデルスゾーンで、ひとつひとつとても丁寧に演奏。フィナーレのスケールの走句にもしっかりとフレーズ感があり、常に音楽的なのは素晴らしい。自由曲のプロコフィエフ第2番でも、力まず、音色やリズム、ヴィブラートを的確に表現し、才能の豊かさを証明した。

ファイナルの最後を飾ったのはチャン・ユジン（韓国）。メンデルスゾーンでは冒頭主題のフレージングから濃厚で、とにかく目が離せない。時に前に行き過ぎることもあったが、ピッチ

■お問い合わせ先／公益財団法人 仙台市市民文化事業団 仙台国際音楽コンクール事務局
〒981-0904 仙台市青葉区旭ケ丘3-27-5 Tel: 022-727-1872 Fax: 022-727-1873 E-mail: info@simc.jp URL: http://www.simc.jp/

といいフレージングといい、鮮やかさでは群を抜いていた。選択はストラヴィンスキー。韓国＋ストラヴィンスキーというと、前回のセミファイナルでのボム・ソリを思い出すが、ユジンは針の穴を通すかのような精巧なテクニックと驚くべき集中力で、弾き始めがすべて同じ4つの楽章の、それぞれのキャラクターを見事に描き分けた。パワーもいささかも落ちず、小柄な姿が大きく見えたほどである。

ファイナルを聴く中で痛感したのは、メンデルスゾーンのコンチェルトの“怖さ”だ。コンサートで頻繁に演奏されることもあり、一見シンプルな作品に思われがちではあるが、演奏側にとってはふと外してしまうような落とし穴のような部分も多く、また聴く側にとっては耳に馴染みやすい美しい旋律が満載のため、わずかなピッチのズレすらも聴き取れてしまう。奏者には過酷だが、課題曲としては最適とも言えるだろう。

ファイナル最終日の翌日は、入賞上位3名が出演するガラ・コンサートが行われた。
第3位の青木尚佳はシューマン、第2位のスティーヴン・キムはメンデルスゾーン、第1位に輝いたチャン・ユジンはストラヴィンスキーを担当した。ファイナルが終わり、少し緊張が解けた中、キムとユジンはのびのびと演奏。青木はセミファイナルで弾いてから約10日を経ていたが、そのブランクを微塵とも感じさせず、しっとりと味わい深く聴かせた。やや個人的な希望ではあるが、青木はこの先もシューマンを大切なレパートリーとして弾き続けていってほしい。

最後に、コンクールとガラですべての作品を指揮した広上氏の見事なサポートを特筆しておかなければならない。コンテスタント全員の音楽に親身に寄り添い、合わせるだけでなく皆のポテンシャルを引き出し、その上オーケストラのみの時にも毎回指揮を変えて新鮮さを作り出していた手腕は驚くべきものだった。並の指揮者にできることではなく、今回のコンクールのクウォリティの高さは広上氏あってのものといっても過言ではない。共演できたコンテスタントたちも皆幸せだっただろう。

コンクールの演奏を
YouTubeでお楽しみいただけます。

第6回仙台国際音楽コンクールすべての演奏を9月末まで
YouTube配信も行います。
http://simc.jp/simc/video/top/

第6回仙台国際音楽コンクール ヴァイオリン部門入賞者

第1位

9 チャン・ユジン
（韓国）

第2位

13 スティーヴン・キム
（アメリカ）

第3位

4 青木 尚佳
（日本）

第4位

27 アンナ・サフキナ
（ロシア）

第5位

10 メルエルト・カルメノワ
（カザフスタン）

第6位

23 岡本 誠司
（日本）

SENDAI INTERNATIONAL MUSIC COMPETITION
■お問い合わせ先／公益財団法人 仙台市市民文化事業団　仙台国際音楽コンクール事務局
〒981-0904　仙台市青葉区旭ケ丘3-27-5　Tel: 022-727-1872　Fax: 022-727-1873　E-mail: info@simc.jp　URL: http://www.simc.jp/